

電気自動車、燃料電池自動車の開発動向

荻野 法一

(財) 日本自動車研究所 FC・EV センター

原油価格の高騰をはじめとした世界のエネルギー情勢を踏まえた日本のエネルギー戦略、「新・国家エネルギー戦略」が2006年5月に経済産業省から発表され、その中で、「世界最先端のエネルギー需給構造の確立」に向け、2030年までに「エネルギー効率を30%改善」「運輸部門の石油依存度（現在ほぼ100%）を80%程度に低減」等の目標が示された。

そして、この運輸部門の石油依存度削減目標達成に向けた取り組みの一つとして、電気自動車(BEV)、燃料電池自動車(FCV)の開発・普及促進があげられた。

さらに2006年8月には、FCV、ハイブリッド車(HEV)、BEVの基盤技術となる電池の研究開発戦略が、「次世代自動車用電池の将来に向けた提言」としてまとめられ発表された。

経済産業省はこれらの目標の達成に向け、NEDO（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）による「次世代蓄電システム実用化戦略的技術開発/次世代自動車用高性能蓄電システム技術開発」を立ち上げている。

本講演では、これら政府の動向を含め、BEV、FCVの最近開発動向等を紹介する。具体的には、下記の様な内容を紹介する。

1. BEVの普及開発状況について
2. FCV実証プロジェクトとFCVの開発状況について
3. Well to Wheel 総合効率について
4. プラグインHEVの動向について
5. 電動車両用二次電池に係わる動向について
6. 次世代自動車・燃料の将来展望について